

飯沼弘経寺展 (旧水海道市) 2006年4月9日(日)～16日(日)

関東三弘経寺(ぐぎょうじ)の一寺(取手と結城)であり、徳川幕府二代将軍秀忠の長女千姫こと天樹院の廟所(びょうしょ)であり遺骨一部が壺に収められていました。天樹院は遺言により文京区の伝通院へ埋葬されていますが、飯山弘経寺に分骨されていたことが平成9年の墓所改修と調査で判明されました。



徳川家の葵家紋が目立つ本堂

飯沼弘経寺展の開催理由

昨年2005年、一切經典の書庫である八角輪蔵が収まる経蔵三間堂が改修され完成しました。本年2006年は初夏より本堂の大改築を行うことになり、四百年程の歴史がある本堂の姿を披露しておきたいという現住職の希望で開催されたのであります。現住職は、飯沼弘経寺の文化財保存の為に期待されておられるようです、若い僧侶でおられますが取手の芸大仲間の協力が随所に見られ頼もしく感じました、きっと眠っていた飯沼弘経寺を活性することと思います。

寿龜山(じゅきざん)天樹院弘経寺、茨城県常総市豊岡町甲一番地、(旧 水海道市) 鉄道での交通機関は不便です。水海道有料道路の岩井方豊岡交差点を元三大師方面3分。

4/9日は無料の野点茶会と琴四竿の演奏会が行われていました。

桜と桃の花ビラが舞い落ちて、天気と時節に恵まれた弘経寺の境内は、心和む一日でした。

そうそう、野点での茶菓子は飯沼弘経寺の特製だそうで、あんこが美味しかった。

ひとりごとです。

最後に、めずらしい風景写真を2撮影ありますのでご覧下さい。

	
<p>境内にある、三色の花を咲かせている椿の木。赤と白に、赤と白の縦縞でピンク色に見える花片の椿です。</p>	<p>鈴なりの鈴、賽銭箱の上に吊り下げられていました。 2003-4/16 撮影</p>
	<p>板壁造りの洋風古民家 どうやら在住されているようでしたカナダの大工さんが来日して建てられたそうです。 弘経寺境内のお隣りにたたずんでいました。</p>

御住職からはいろいろとお教え頂きましてありがとう御座いました。
飯沼弘経寺本堂のリニューアルに期待しております、応援しておりますので頑張ってください。



本文の説明追記、 2006年6月

十八檀林

「関東十八檀林(だんりん)」とは、江戸時代の関東における浄土宗の十八の学問所で十八檀林霊場は全国に点在し、関東十八檀林もその一つです。

関東十八檀林の所在寺は下記のようになります。

武蔵国、江戸の伝通院、増上寺、幡随院、靈巖寺、靈山寺、岩槻の浄国寺、
八王子の大善寺、鴻巣の勝願寺、川越の蓮馨寺

相模国、鎌倉の光明寺

常陸国、瓜連の常福寺、江戸崎の大念寺

下総国、飯沼の弘経寺、結城の弘経寺、小金の東漸寺、生実の大巖寺

上野国、太田の大光院、館林の善導寺。です。

2006年4月9日 記、写真撮影 kumaken コピーによる転載は禁止します

2006年6月1日 追記

「弘経寺四寺」へ。